

5 更なるバリアフリーの推進に向けて

ユニバーサル社会の実現に向けた取組

今後、少子高齢化の進行が見込まれる中で、生活に障壁（バリア）を感じないような対応を必要とする人は、さらに多くなると考えられます。また、人の能力や個性は一人ひとり異なっており、年齢や環境の変化等による影響を受け刻々と変化していくものです。

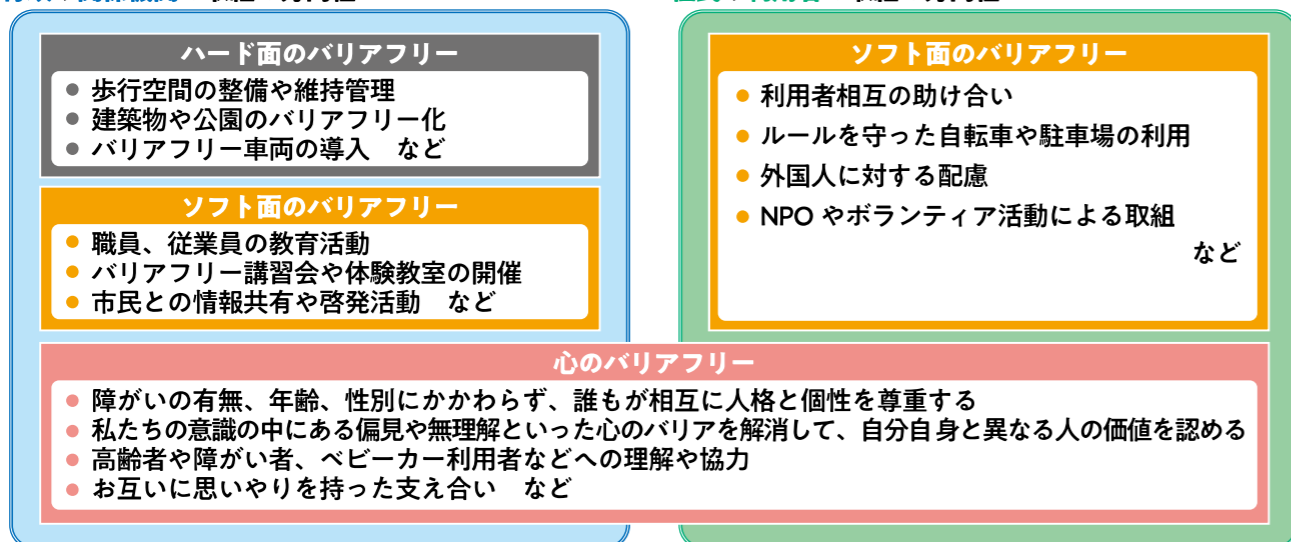
このため、障がいの有無や年齢等にかかわらず、一人ひとりが自立し、互いの人格や個性を尊重し支え合うことで、社会の活動に参加・参画し、社会の担い手として役割と責任を果たしつつ、自信と喜びをもって生活を送ることができる共生社会（ユニバーサル社会）の実現に向けた環境を整備していくことが重要です。

そのためには、障がい者、高齢者、妊産婦などに主な焦点を当て、社会生活をしていく上でバリアとなるものを除去するという考え方（バリアフリー用語）とともに、新しいバリアが生じないよう誰にとっても利用しやすくデザインするという考え方（ユニバーサルデザイン用語）が必要であり、この両方に基づく取組を併せて推進することが求められます。

基本構想策定後は、各施設管理者によりハード面の整備が進むとともに、バリアフリー講習会や体験教習を行うなどソフト面の取組により、高齢者、障がい者等に対する理解、すなわち「心のバリアフリー」の推進が期待されます。安全、安心、快適なユニバーサル社会を実現するには、全ての市民がこの「心のバリアフリー」を正しく理解し、お互いに支えあうことが必要であるため、市をはじめとした関係団体などの活動を通じて普及啓発に努めます。

行政や関係機関の取組の方向性

住民や利用者の取組の方向性



ユニバーサル社会実現のイメージ

用語 バリアフリー

障がいのある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味で、もともと住宅建築用語で登場し、段差等の物理的障壁の除去をいうことが多いが、より広く障がい者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的などすべての障壁の除去という意味でも用いられる

用語 ユニバーサルデザイン

バリアフリーは、障がいによりもたらされる障壁（バリア）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方

バリアフリー化の促進

札幌市では、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」、そして新たなバリアを生じさせないというユニバーサルデザインの考え方を、ハード面だけではなく、人の意識や情報、社会参加の仕組みにも取り入れる必要があるため、普及啓発に努めます。

また、個々の施設整備だけでは利用者にとってバリアを感じる事のない生活空間とはならないため、面的な広がりを持った整備を推進することが必要です。

そのため、一部の関係者のみによる取組とするのではなく、社会全体で取組を進めていくことが重要であり、関係者相互による積極的な情報交換・情報共有を行い、連携・調整を図るとともに、バリアフリー化の取組の促進や、対策内容の充実についても引き続き検討を進めます。

これらの取組を通じて、心のバリアフリーが実現した誰もが暮らしやすいまちを目指すとともに、インフラのバリアフリー化を促進してまいります。

スパイラルアップ

バリアフリー化を進めるためには、具体的な施策や措置を当事者参加の下で検証し、その結果に基づいて新たな施策や措置を講じることにより、段階的かつ継続的な発展を図っていく「スパイラルアップ」が重要です。札幌市では、事業の進捗状況や社会状況の変化等を踏まえ、今後も必要に応じて基本構想を見直し、時代に即したバリアフリーの取組を推進します。

また、札幌市に対し、市民・事業者などから基本構想の改定などに関わる提案があった場合には、関係機関と協議の上、必要に応じて基本構想の見直しの検討などを行い、「福祉のまちづくり推進会議」にて報告することとしています。

